

令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
昨年度と比較して、「そう思う」等の割合はほぼ同じである。その中でも、質問1の児童の回答の「そう思う」の割合が、昨年よりも上がっている。これは、教職員の「一人一人を大切にする」気持ち・指導が、児童にもしっかりと伝わっているのだと思われる。今後も、教職員全員で力を合わせ、指導に励んでいきたい。	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
質問3に関しては、三者の回答の傾向はほぼ同じであった。しかしながら、教職員の「そう思う」が昨年度より若干下がっている。自分自身の振り返り、より厳しく見つめなおしているものと思われる。また質問4の保護者の「どちらかといえばそう思わない」が増えた。今後、家庭でのタブレット端末の活用方法(課題に取り組みさせる時の使い方等)についても考えていく必要がある。	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
質問5に関しては、保護者の「どちらかといえば、そう思う」の割合が10%ほど下がり、わからないが2割に達した。支援の必要な子の保護者には伝わっているはずだが、それ以外の保護者にも学校での取り組み(支援体制)を伝える手立てを考えていきたい。質問6については、教職員の「どちらかといえば、そう思わない」が割合が高くないが、数名存在する。どんな点でそう感じるのか。教職員間で十分に話し合う機会を持ちたい。	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進	
7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>質問7の児童の回答で、「そう思う」が昨年度と比較して大幅にアップしている。日頃の教職員の声掛けや交通指導が浸透した結果だと思われる。質問8では、保護者の回答の「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」の割合が若干下がった。また教職員の回答の「どちらかと言えば、そう思わない」の割合も少し増えていることから、家庭や地域との連携・協力といった面では改善点を明らかにした上で、どのような連携、協力体制が望ましいのか、今後も創意工夫を加えながらの取り組みが必要である。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進	
9 心豊かに～挨拶～	10 他とのかかわり～協働～
子ども(あなた)は、友達や地域の人に進んであいさつをしていると思いますか。	子ども(あなた)は、先生や友達と対話したり、かかわり合いながら学習していると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>質問9では、児童と保護者の意識の違いがはっきりと数値になって表れた。また教職員は、「そう思う」がいなかった。挨拶をする子は多くいるが、しない子も確実に存在するので「進んで」とはならなかったであろう。更なる取り組みを工夫したい。また質問10は三者とも「かかわり合っている」と振り返っていた。教師の授業改善が進み、子どもや保護者にもそれが伝わっているものと思われる。今後も発展させ、続けたい。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進	
11 たくましく生きる～主体性～	
子ども(あなた)は、学校の行事に積極的に参加していると思いますか。	
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	
<p>質問11に関しては、学校教育目標にも掲げている「児童の主体性」について尋ねたが、三者とも80～91%が肯定的な回答を返している。コロナ禍で様々な行事が行われなくなったが、子どもたちは計画された行事には、いずれも主体的に参加し、やる気を出して活動していることが分かった。子どもたちの経験の場を広げ、友達との関わりを学びながら自己調整力を身に付けていくためにも、教師、児童が互いに無理をしないよう創意工夫をしながら、行事の計画を立てていかなければならないと考える。</p>	

来年度の具体的な取組について

○保護者の入れ替わりもあり、評価数も異なるが、全体的な傾向として大きな変化は見られないが、詳細を見ると教職員、保護者、児童の回答には微妙な違いが存在する。そこを全教職員で詳しく分析し、改善すべきところは確実に改善を行う。

○「交流及び共同学習」に関しては、教職員内でも意識の違いが見られる。来年度を迎える前に十分な意見交換を行い、共通理解を図った上で取り組んでいく。○校内支援体制作りは確実に進んでいるが、関係する保護者だけでなく、それ以外の保護者にも、子どもの状況に応じていつでも相談できるということを周知していく。○行事等で地域人材の有効活用を行い、地域に開かれた学校を目指し、社会全体で子どもたちを育てていけるようカリキュラムマネジメントに取り組んでいく。

学校関係者評価

○一人一人を大切にした指導や対応、わかる楽しい授業づくり、タブレット端末の活用、支援体制、子どもと教師との対話(協働)、行事への参加の質問には、全員が「そう思う」との回答だった。教職員の自信に繋がっている。

○挨拶に関しては、子どもに要求するだけでなく、大人も積極的に挨拶をしていくほうが子どもたちにも良い影響を与えるのではと思う。○学校内が落ち着いていて、靴箱等もきれいである。挨拶もよくしてくれると感じている。○地区の民生委員さんが学校外の校区探検時にお手伝いをされている。これからいろいろな場面で、地域の力、協力ができたらと考えている。